

第 16 回岐阜県国保地域医療学会

メインテーマ：地域医療を守ろう ～自守・共守・公守～

(自守...自分たちの医療施設 共守...地域住民など 公守...国・県等の行政機関)

会 場：岐阜市「岐阜県県民ふれあい会館」

開催日：平成 22 年 11 月 21 日

参加人数：309 名

研究発表演題数：60 題

【開催概要】

第 16 回岐阜県国保地域医療学会は、県内の国保診療施設に勤務する医師等、関係職員のほか、市町村の国保・衛生、大学、研修医、研修指定病院、介護施設などから 309 名が参加のもと、日頃の研究成果の発表、特別講演、シンポジウムを行いました。

開会式は、第 16 回岐阜県国保地域医療学会瀬古章学会長（国保関ヶ原病院長）の開会挨拶で始まり、岐阜県国保診療施設協議会 高山哲夫会長（国保坂下病院長）、岐阜県国保連合会 小川敏理事長（大垣市長）の主催者挨拶の後、岐阜県健康福祉部地域福祉国保課 平井克昭課長の来賓挨拶が行われました。

研究発表では、国保診療施設の医師・看護師等の従事者、市町村保健師、事務職等が、取り組みの課題と改善意識を持って一堂に会し、平成 6 年度の初回開催時から継続して、50 演題以上の研究発表が行われています。今学会では、過去最多の 60 演題の研究発表があり、3 会場に別れて参加者からも具体的な質問、提言等がなされ、熱心な討論が交わされました。

本学会では毎年、優秀研究発表者の表彰（全国国保地域医療学会への発表推薦を兼ねる）をしており、研究発表終了後、各会場の座長・責任者による採点・推薦が行われ、選考委員会において、最優秀賞に国保飛騨市民病院 医師 工藤浩氏の「嚔下性肺炎クリニカルパスを用いた集学的治療による再発・胃瘻患者減少への試み」が選ばれ、優秀賞には、国保坂下病院 看護師 赤坂純氏、同薬剤師 西尾晃氏、本巣市国保根尾診療所 看護師 本郷美佐子氏の 3 名が選ばれ、第 51 回全国国保地域医療学会への発表推薦を行いました。

特別講演では、埼玉県志木市長 長沼明氏による「地域に安心を与える医療～埼玉県志木市の取り組み：『健康・医療・福祉都市構想』～」と題した講演が行われました。同氏は、国保直診の理想と同じく、子どもから大人まで全市民が健康・医療・福祉の面で安心して暮らしていける街づくりを目指した志木市の取り組みを具体的に述べられました。

続いて行われたシンポジウムでは、「みんなで守ろう 地域医療」をテーマに、埼玉県志木市長 長沼明氏を特別発言者として迎え、またシンポジストには、今回新たに住民の方にも参加していただき、国保直診開設者代表として下呂市長 野村誠氏、診療施設等からは東白川村国保診療所長 北川浩司氏、関ヶ原町訪問看護ステーション訪問看護師 三宅芳子氏、市町村保健師からは郡上市健康福祉部健康課保健師 直井千鶴氏、住民代表として中津川市の高齢者大学青川フェニックス 大学長 北原圓平氏が発表されました。地域医療の必要性や現状を理解し、直診・行政・住民が一体となった「地域医療の在り方」について、それぞれの立場から取り組みを述べられました。発表後は、長沼明氏からの助言や会場からの意見も多くいただき、参加者を交えた活発な討議が行われました。

最後に、平成 23 年度第 17 回岐阜県国保地域医療学会の担当地区及び学会長を発表し、次期学会長に決定した、可茂・東濃地区の西脇巨記氏（国保上矢作病院長）の挨拶が行われ、第 16 回岐阜県国保地域医療学会 棚橋徳重副学会長（関市国保板取診療所長）の閉会挨拶で学会の全日程を終えました。